

東京クローバークラブ演奏会のご報告

東京クローバークラブの梅田（S63卒）です。遅くなりましたが、昨年11月に開催した演奏会の報告をいたします。

東京クローバークラブについては、今後、このOB会報を通じてどんどん発信していこうと思っております。グリークラブのOBで卒業後も各方面で歌っていることは素晴らしいことだと思います。現役支援の思いを忘れず、現役時代の思い出に感謝しつつ、豊かな心でOBとして縦横斜めと親睦を深めていくのが、本来のOBとしての姿。OB会と共に歩み絆を大切にする合唱団、それが東京クローバークラブです。

その演奏会を、第三者の立場で感想を述べられた文章を転載するのが一番かと思い、ご本人の了解を得て、ここに転載させていただきます。

立教大学グリークラブ昭和63年卒指揮者の前川和之さんです。東京クローバークラブで歌ったことのない方が、ぜひ、興味を持っていただければと思います。

以下、転載

これまで何度かのOB同立演奏会でご一緒してきた、東京クローバークラブのみなさんの演奏会を聴きに行きました（11月26日、東京山手教会）。

組織としてのOB団体というのは、自分たちの懇親以前に、まずは現役支援のために存在しなければならない。それは特にこのコロナ禍で弱っている現役たちのことを思えば、揺るがせにできない使命です。

しかし、音楽団体としての合唱団は、まずは自分たちの目指す音楽をすること、合唱団であれば納得する歌をうたうこと。OB合唱団の場合、前述の現役支援や単なる懇親、ちょっと真面目になったとしても自分たちの現役時代の焼き直しにとどまってしまうことが多いと思いますが、今の自分たちが、目一杯、歌うべき歌を歌いただけ歌い切っているか、合唱団・音楽団体としての根源的な喜びとどれだけ向き合っているか、わたくしも自問自答することがあります。

その意味で、東京クローバーのみなさんは、わたくしにとってのお手本であり続けています。今回TCCは、あのバッハ・コレギウム・ジャパンのバリバリのベース歌手である渡辺祐介さんを指揮者に連れてきました。渡辺さんはたぶん、「日本の大学男声合唱界」というきわめて狭い世界の常識なんて、一切ご存知ないはず。そんな彼が先入観のない真っ新な目で選んだのが、「月光とピエロ」そこには、音楽以外の何もありません。ということは、合唱団は純粹に音楽的な楽器として充実していなければならない、ということです。

そして実際そこにあったのは、パート毎のピッチの純度が高く、フレージング（アーティキュレーション）が明確で、そして身体が躍動するようなプレスワークで歌われた、まさしく音楽的なピエロでした。そしてこれが、平均年齢70後半（？）の、30人にも満たない合唱団の歌であるという事実！

そして、やっぱりこれがなくちゃ同志社ではない、あのたっぷりとしたカンタービレ。

先ほどわたくしは、日本の大学男声合唱界なんて狭い世界と書きましたが、それでもこの合唱団は、あの福永陽ちゃん先生の棒でピエロの幾多の名演を成し遂げてきた同志社グリークラブを母体としていることを、心の底で誇らしく、かつ羨ましく思うのです。

アンコールでは「梅雨の晴れ間」が歌われましたが、これは「来年の演奏会の予告編」とのこと。

はなだ色のハーモニーはまだまだ現在です。